

【1.体制】

2023年度も8人体制での運用となった(1名9月途中から産休入り)。継続して検査室内でのローテーションを行い、全体でのカバーリング体制を継続し、有給休暇取得や病欠者発生時などにはフォローし業務を遂行した。

【2.取組内容と実績】

(1) 外来採血業務への参入は継続しており、基本週1日だが、外来繁忙時には可能な限りフォローに入っている。

昨年同様に出前健康講座はコロナ禍の影響により、検査室からの講座は開催されなかった。新人看護師を中心としたミニレクチャーは、コロナ禍以前の状況に戻り、通常開催となった。

昨年よりは減少したが、今年度もCOVID-19のクラスターが発生し、大量のLAMP検査を行う必要があった。休日返上での対応もあったが、技師および現場看護師の協力の下、無事に検査を実施する事ができた。

検体検査の件数は、前年度よりわずかに減少した(COVID-19検査件数減少のため)。

(2) 心エコーおよび腹部エコーは4名体制となった。さらに他の領域も充実した体制を構築していく必要がある(特に血管エコーへの対応が急務だが、あまり進展していない、次年度の課題)。また、既存の機器(特に超音波診断装置)を用いた、新規領域の開拓を行いたい。

生理検査の件数は新型コロナの5類への移行もあり、呼吸機能検査も再開され、2022年度に対し、500件ほど微増している。

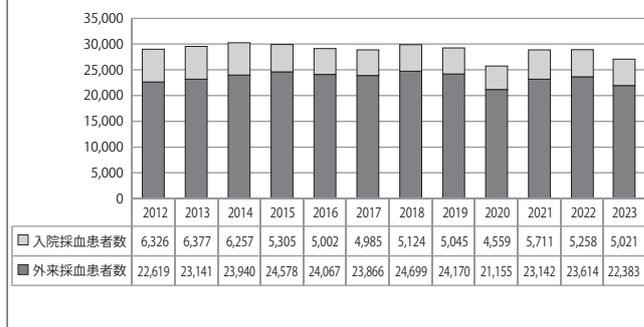
検体および生理検査共に、整形外科閉科による、検査件数の減少が懸念される。

【3.今後の課題】

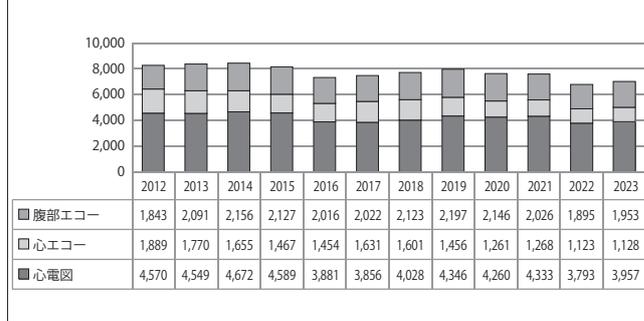
(1) 役職者の登用が急務である。

(2) 超音波診断装置が購入後10年以上経過しており、メーカー側の故障時対応困難機種となり、新機種の購入を希望する(血圧脈波検査装置および血液ガス分析装置は年度明けに、熊本病院より譲渡予定)。

採血患者数年度別推移



主な生理検査年度別推移



病理・細菌検査年度別推移

